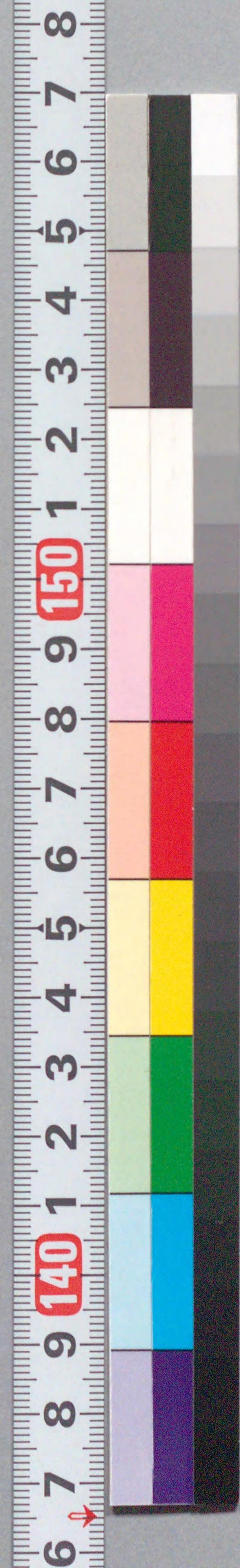




国立国会図書館 秋雨夜話 3編9巻 208-695



ガラス使用

秋雨夜話

上

208
9
695



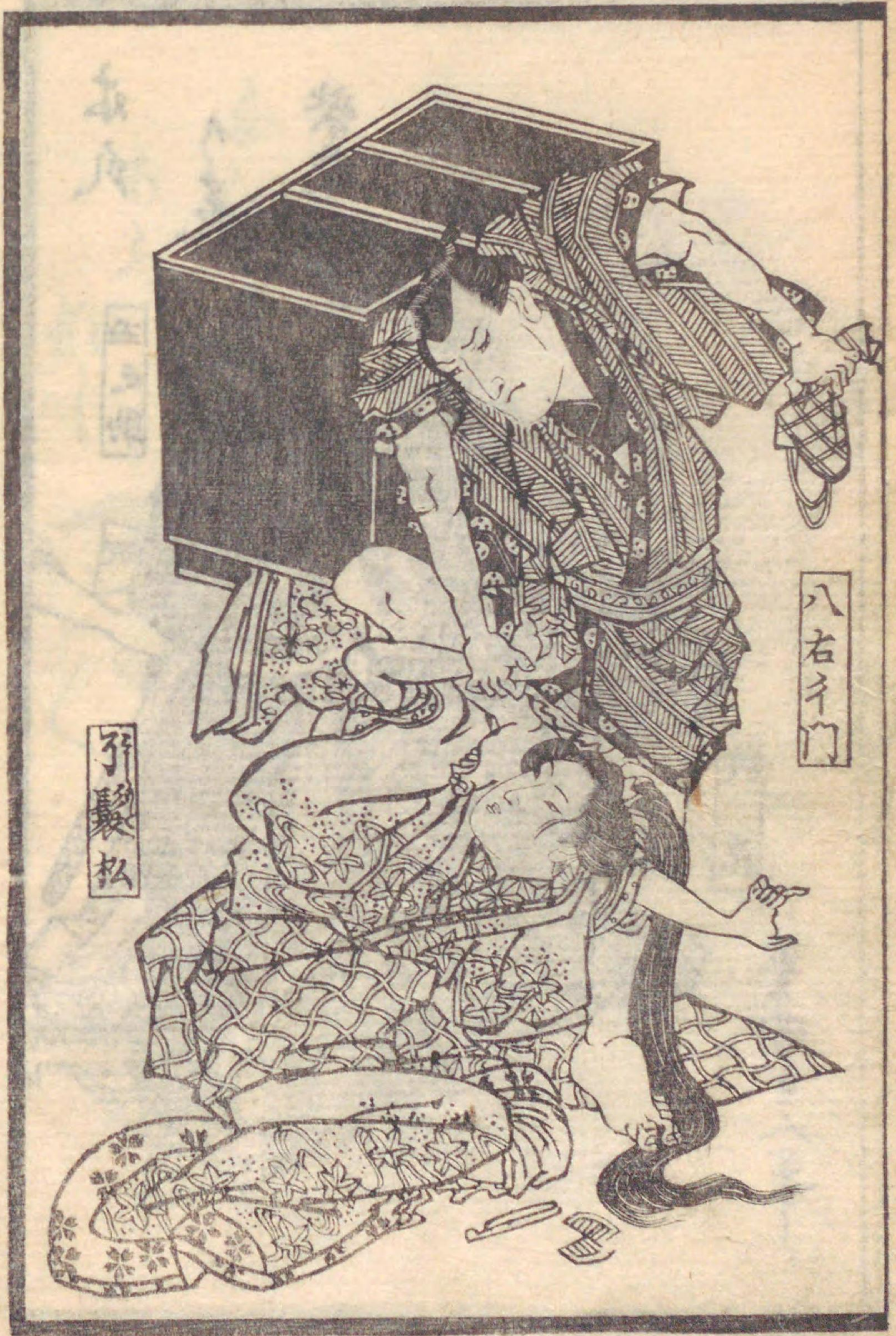


秋雨夜話二編卷之壹

第六回

まるやかく子化

言りてみも悪事千里を走るをのち。さくもかき死
 八右衛門ら山右衛門夫婦節菴等殺害し。金銀
 成宝おとぐくまひ。そのをわたり。なる程よ。おききき
 其後安産しく。玉のごと死女子を産り。是山右衛門が
 た秘するといひ。偽り。あきも又八右衛門のまじり
 六。二個が寵愛大くするまじ。かぎりの玉とたのしみ



八右衛門

子化

けるが。密車くきせのり色いろやましく。程なく西車せいせ露頭ろくづして。
 既まにかちめ捕とらまんと志こころまうしうとど。のふして悟さとらん。
 風かぜ残のこららうくのづれりて。足あしふまうのせて落おち失しけるが。
 りづらの志こころる風かぜ残のこたよりく。信濃路しんのうぢへとこらうぞう。
 夜よを日ひは洗せんひで枕まくらちぬたうるが。さある山路やまぢよけ
 の色いろバ。折ちしも秋あきのまゝなるふ。日ひもまや西せいへ
 うらめきて。をほましくも女め夫とは道みち中なかにむらりの
 稚わ児こをうらまふ負おうらむ死しは。歩あむとまら色いろど暮くれ
 かる空そら残のこまのましく八やた巻まりてある海うみどらやんこら
 めめへのの。せんくわのうま入い骨ほねと折ちく。山やまた巻まり夫婦ふうふ
 とまうしめ。第ち菴あんまでだままふまもなくおらあろし。
 ぬきまぐわうとて。路みちに相あ續つ。身み上あまうどろ志こころ免めん
 の狐きつねと。おらうと所ところが火あ点てん遠ちひり。まう一年いちねんたんの
 ちぬふまもぐと。面おもて白しろんまねもせむふ。あんまう早はやら
 大おほづもいりあかん。大おほく志こころらう。まうわぶねく
 推おし言ごよ。S。あまうしうらうらうらうのたうら



むら時雨かきこみふらふ雅児をぬらさるゝのを
足むやふ。そととまされど爰よりして里まへにや。三四
里もある。ぬれをちたふせんと。えゆれむうよよわき
とて。軒うぶき。小社あり。これさんさんと悦びつ。
ゆたはぎゆへど急だちのづき。軒端ふたぎ。うては
て空うちなごめて居る。うと。セツさぐらふ降雨を。
やまぬののと。今宵は爰の辻堂よ。せをて一
衆とあうさんと。やう板もき。小腰うちかけ。内のように

のぞけば。地藏菩薩壇を安置したる小堂にて
ぞのりける。誰に向ふ。あふ袂ども。ゆとさやう
折鶴や。うら五色の綃をぬく。さもうらうらき
くを猿次のみごと。小結さげ。つる。八丈巻の
ちやくも。なごめ。ゆとさ。ゆとさ。雅児をかきた
背に金かきおろし。とたぬてあをびと。彼をを。
その見よ。せてきう。つ。あつりの木の葉。成
かたわらぬ。やう火をたき。寂前より。混る



有りや小便あひ残のこしう。ア、くらりぞくひぞく
真ま闇くらの晩ばんど。鼻はな残のこはしきも知しれ福ふく人ひとぞく
をやく小便あひ残のこしう。ニ、いゝゝゝんくあはくくく。
あはさ。だやくあお残のこしう。なぐなぐり子こ
たぞ。可愛うめい坊ぼう主ぬしとあおしうと。ありうごのせむ
推お見みら。あはくく残のこしうむだ父ちちが顔かほはくくくと
うちたつが先先見見モウレハ右みぎ巻まきどの引ひ。おまへのよ
と。いよあゑら。先先妻妻おさぬがらあふそのはく。
むらとりえうら。陰いん火くわの先先見見い。海うみ残のこ見みはげ。
今いままぐりその子のうわおむだう。うごひもるま
おさぬが顔かほ色いろ。さきどの不ふ敵てたのハ右みぎ巻まきも。おま
りだナ。んと仰うや天てんし。我わが見み残のこはしきんでおま
はのせ。前まえある谷や人ひとぞく。なげ。指さし子こお
其その身みもら。小こ椽えんよりあく。真まさ。のし。ま。落おちる
と。その中ちゆう。岡おか絶たし。て。あはくく息いきも。うえうり
ける。そのとたふ。たれとも知しらば。回まわ五ご人にんし。て。

有りや小便あひ残のこしう。ア、くらりぞくひぞく
真ま闇くらの晩ばんど。鼻はな残のこはしきも知しれ福ふく人ひとぞく
をやく小便あひ残のこしう。ニ、いゝゝゝんくあはくくく。
あはさ。だやくあお残のこしう。なぐなぐり子こ
たぞ。可愛うめい坊ぼう主ぬしとあおしうと。ありうごのせむ
推お見みら。あはくく残のこしうむだ父ちちが顔かほはくくくと
うちたつが先先見見モウレハ右みぎ巻まきどの引ひ。おまへのよ
と。いよあゑら。先先妻妻おさぬがらあふそのはく。
むらとりえうら。陰いん火くわの先先見見い。海うみ残のこ見みはげ。
今いままぐりその子のうわおむだう。うごひもるま
おさぬが顔かほ色いろ。さきどの不ふ敵てたのハ右みぎ巻まきも。おま
りだナ。んと仰うや天てんし。我わが見み残のこはしきんでおま
はのせ。前まえある谷や人ひとぞく。なげ。指さし子こお
其その身みもら。小こ椽えんよりあく。真まさ。のし。ま。落おちる
と。その中ちゆう。岡おか絶たし。て。あはくく息いきも。うえうり
ける。そのとたふ。たれとも知しらば。回まわ五ご人にんし。て。



さういふその甲斐^ケあつてさういふ二個^{ふたご}と大地^{ちち}ふ
ざうと坐^まし。さう惘然^{むじぜん}たるをさういふく。あつて
る紫^{むらさき}もさういふけり

第七回

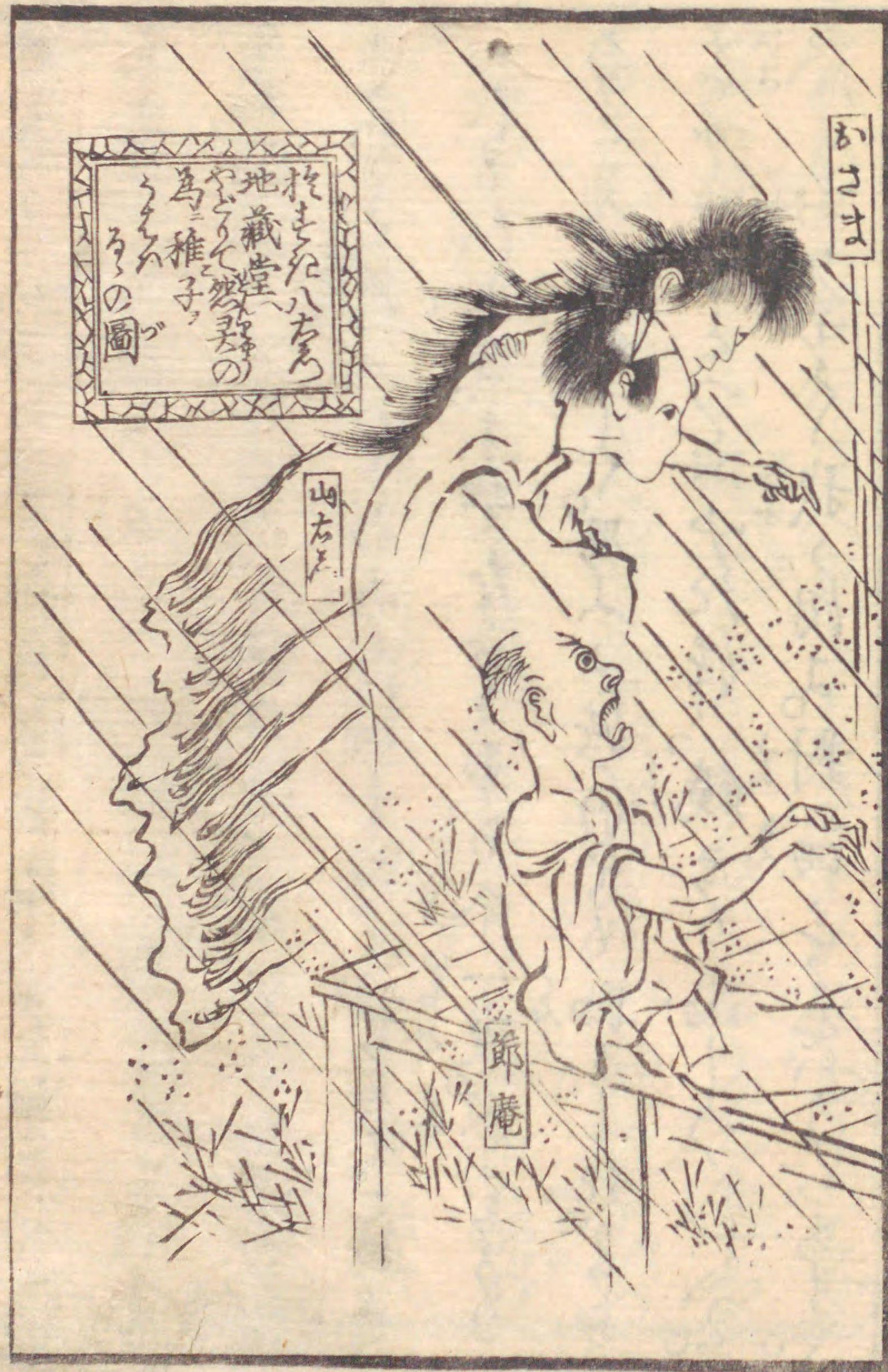
其^{その}一條^{いちじょう}のめづるやあきぬ。爰^{こゝ}に信濃^{しんのう}國^{くに}
更^{さら}級の母^{はは}とさういふ。秋野^{あきのの}萩^{はぎ}右^{みぎ}邊^へつとさういふ。有^あ
徳^{とく}なる農^{いんぎやう}民^{みん}あり。うれが嫡^{むすこ}子^こと玉^{たま}之^の助^{すけ}
とよびく。さういふ二十^{にじゅう}小^{せう}さういふけり。生^う得^た

柔^な和^やめして男^{おとこ}ぶりを勿^な論^{ろん}する。人^{ひと}がさう
いひ。諸^{あま}藝^{げい}といひ。さういふ人^{ひと}とさういふ譽^{うた}ぬをさういふ。
そのまゝに近^{ちか}辺^へふあまもまゝ。富^{あき}饒^{なり}の後^{のち}室^{むろ}ふ
て。年^{とし}ハ三十七七八なるが。四五^{四五}福^{ふく}ん^んいぜん夫^{あつと}い
別^{わか}れ。かぎさういふて諸^{あま}さういふ。苔^{こけ}の下^{のち}あま
入^いらびてと難^{たがひ}面^{めん}いのちをかあまはさ。慕^{あこが}ひ
さういふくさういふ。さういふ髪^{かみ}と剃^そる。し
名^なも暁^{あき}月^{げつ}とあつたあて。墨^{すみ}のあつるもさういふ

さき成りえ。善提ぜんたいのまらふらりぬきば表家と
をうきく閑あたらなる。草くさの庵やり成むまびはく。
朝暮あさゆふそのふ御佛ごぶつよつらある外あつ他た車くるまうらり
き。志こころのふそのある。萩はぎたあつが家いへあく。あつら
ごと車くるまあつらとく。佛ぶつ車くるまとらとら。百ひゃくまん
遍あまと修行しゆぎやうしけ。折さらら暁あけ月づき尾おも。その坐まふ
流ながららり。玉たま之助のすけの面影おもかげを。ひとめえらより
持もつとく。あふりり念珠ねんじゆ成なりあつらむ志こころら

は礎いしとおやして。あつらと氣きがつたきさる。あつら
浅あさきや。佛ぶつふ法ほふうままるる身みの何なにとくか。
あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。
戒かいしあそのはふ。別わかき成なりつげく。歸かへて。あつらあつら。
ど。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。
まのあつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。
せび起あもせび。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。
風のたより。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。あつらあつら。





世ふあるをたさへ見ぬきまの残はしとや
のぬの此もぐ。齡老たりやんをたたり。とを
がらたぐうやとひとびとびんかろう。又トびん
うらめしく。腹さしともらや中しく。終小病の
床ふふ。くろ。あつれども。曉月が。やまひは
のち残たはあつとく。知るのれさうふりける。
さうま。ま。曉月が。甥ふ。山梨助右衛門とら
者あり。ひとり娘。残花とよびて。ちの三五

世ふあるをたさへ見ぬきまの残はしとや
のぬの此もぐ。齡老たりやんをたたり。とを
がらたぐうやとひとびとびんかろう。又トびん
うらめしく。腹さしともらや中しく。終小病の
床ふふ。くろ。あつれども。曉月が。やまひは
のち残たはあつとく。知るのれさうふりける。
さうま。ま。曉月が。甥ふ。山梨助右衛門とら
者あり。ひとり娘。残花とよびて。ちの三五

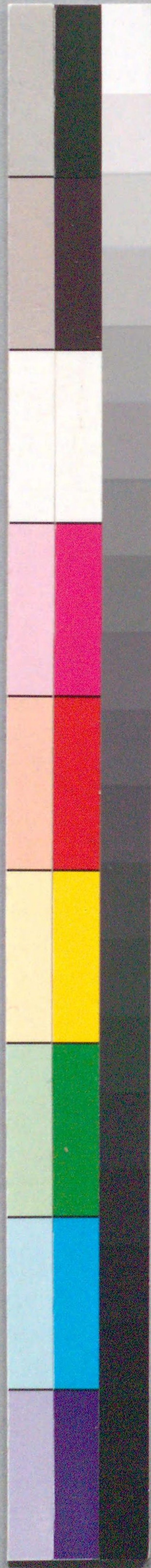


た^らばよのしもこころざらうてたのり松^{まつ}をれく
ま^まつと。さちち^{さちち}成^{なり}あけるとは^こ婚^{こん}禮^{れい}のさあ^あ海^{うみ}が
あ^ありま^まさ。あ^あは^はら^らん^ん髪^{かみ}く^くあ^あぜ^ぜう^うさ^さぬと^とお^お之^し
助^{すけ}さ^さぬと^とお^おま^まの^のづ^づた^たの^の所^{ところ}く^くこ^こぞ^ぞん^んま^まん^んぞ^ぞよ^よろ
か^かぐ^ぐの^の恰^さ好^{こう}ま^まく^くが^がよ^よく^く似^かく^く居^かる^るま^まま^まと^とか^かん^んお
か^かぐ^ぐと^とい^いづ^づば^ば中^{ちゆう}か^かま^まら^らう^うら^らま^まら^らの^の女^{にょ}中^{ちゆう}の^の髪^{かみ}
あ^あひ^ひと^との^のけ^けい^いも^もく^くる^るた^たら^らう^うを^をい^いく^くあ^あの^の髪^{かみ}
あ^あひ^ひと^との^のざ^ざら^ら。お^おく^く助^{すけ}さ^さま^まの^の所^{ところ}へ^へも^もお^おま^まい^い

の^のら^らお^おぐ^ぐ一^{いち}成^{なり}結^{むす}ひ^ひお^おは^はり^りと^との^のい^いさ^さと^と。裁^きて
一^{いち}鎌^{かま}倉^{くら}の^の女^{にょ}中^{ちゆう}た^たち^ちら^ら。く^く田^{でん}舎^{しゃ}の^のお^おら^らと^とい^いふ
ち^ちづ^づく^く。何^{なに}お^おほ^ほけ^けて^ても^も器^き用^{よう}な^なと^と。三^{さん}味^み線^{せん}
ら^らよ^よく^くひ^ひく^くを^をい^いた^たら^ら。世^せ事^じへ^へう^う。容^{よう}色^{しき}を^を
う^う。そ^そ。マ^マ。う^うを^を氣^きか^かる^るで^でい^いま^まお^おび^びら^ら
ま^まを^をよ^よ「そ^そ色^{しき}お^おま^ま」刺^さ刀^{とう}を^を洗^{せん}う^うの^のが^が大^{だい}上^{じやう}手^て
で^でお^おび^びら^らも^も曉^{あき}月^{げつ}さ^さぬ^ぬの^のあ^あさ^さう^うや^やた^たと^とも^も。そ^そう^うお
ま^まら^らと^とい^いふ^ふ。事^{こと}へ^へお^おび^びら^らも^も花^{はな}を^をい^いく^くそ^そ入^いる

208
9
695





国立国会図書館 秋雨夜話 3編9巻 208-695

ガラス使用